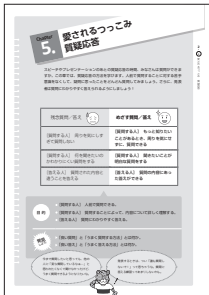


Chapter 5. 愛されるっこみ 質疑応答

< 発表後に苦手意識を持たないで質疑応答ができるようになる >

発表の最後の質疑応答の時間に、「何を質問したらいいのかわからない」「こんなこと聞いたらダメかな?」と思っている学生は多くいます。また良い発表をしたとしても、聞き手からの質問に答えられず、あたふたとする学生もいます。多くの学生が、質問することや質問に答えることに苦手意識を持っており、質疑応答がうまくいかないことがあります。


発表は自分ひとりで練習することができ、練習をすればするほど上手になります。しかし、質疑応答の練習は質問してくれる人、聞き手が必要です。そこで本章では、質問するという行為について考え、次に身近なトピックで質疑応答の実践練習を行い、質問することができる、そして、きちんと質問に答えられる、両方の力を高めていきます。



学習目的	
★ [質問する人]	人前で質問できる。
★ [質問する人]	質問することによって、内容について詳しく理解できる。
★ [答える人]	質問にわかりやすく答えることができる。
時間管理（1回の授業を90分と想定）	
1回目	スピーチの準備
2回目以降	発表と質疑応答
発表形式	
グループ内で1人ずつ発表（各人2～3分）	
グループ内で質疑応答（各発表後10分）	
準備するもの	
相互評価シート（発表者の人数×聞き手の人数） →このPDFのp.59	

授業の進め方の例と注意点

● 1回目 <スピーチの準備>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
0	15～20分	アイスブレイキング・アクティビティ：「ウソつきは誰？」	ヒント集限定！ 
1	20～30分	グループでワーク：「質疑応答」について考えよう！	p.64-65
2	15～20分	グループでアクティビティ：質疑応答の練習！（「好きな食べ物について」）	p.66
3	10分	質疑応答のための発表準備の説明	なし

0-1. アイスブレイキング・アクティビティ：「ウソつきは誰？」 [15～20分程度]

目的	グループで楽しみながら緊張をほぐし、質疑応答に慣れる。
手順と注意点	<p>用意するもの</p> <p>B5の白紙（人数分）（※なければノートなどに書かせる）</p> <p>手順</p> <p>(1) 番号の割り振りなどで、1グループ4～5人になるようにグループ分けをする。この日の授業は終始このグループで協働作業をしていく。グループで一緒に座る。</p> <p>(2) アクティビティのルールを説明する。</p> <p>① クラス全員、自分のことについて3つの文を紙に書く。3つのうち1つだけ、ウソのことを書く。</p> <p>[例1]</p> <p>① 私の祖父は双子です。 ② 私は双子です。 ③ 私の母は双子です。</p> <p>[例2]</p> <p>① 小学校のときにテレビに出たことがあります。 ② 先週、有名な芸能人に会いました。 ③ 家族以外の人と住んでいます。</p> <p>② グループのメンバー間で、発表する順番をジャンケンで決める。 ③ 発表者は他のメンバーに3つのことをウソがばれないように、全部本当のことのように発表する。</p>

手順と注意点

- ④ 聞き手のメンバーそれぞれが発表者に質問をしていく。4人グループの場合、3つのことに対して、3名で合計9問だけ質問ができる。
- ⑤ 質問が終わったら、どれがウソか当てる。

(3) 役割を交代する。

(4) クラス全体でアクティビティを繰り返す。

ポイント・注意点

※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を出す。

[例] 私はカレーを食べません。
私の祖父は有名人です。

※ 誰もがそれは本当だとわかることは言わない。

[例] 私は今まで物を盗んだことはない。
私は学生である。

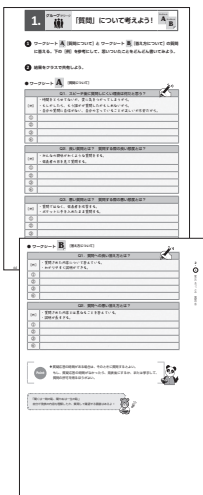
※ メンバーどうしがまだよく知らない場合は、自己紹介としてできるアクティビティだが、すでにお互いをよく知っている場合は、メンバーが知らない過去のことが書きやすい。

1. グループでワーク：「質疑応答」について考えてみよう！ [20～30分]

ワークの目的

質疑応答についてどのようなことを思っているか、グループで考える。

テキスト pp.64-65



手順

テキストの手順 (①～②) に沿ってワークを進める。

- ① グループで【ワークシートA】の[質問について]と、【ワークシートB】の[答え方について]、例を参考にして思いついたことを書くように指示する。
- ② グループで出た結果をクラスで共有する。

ポイント・注意点

※ アイデアが出てこない学生には、いくつか例を示す。

[例]

ワークシートAの「Q1. スピーチ後に質問しにくい理由は何だと思う？」

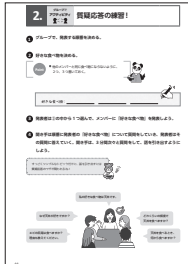
- ・ 発表者の言うことが正しいと発表を聞く前から思っているので、初めから質問しようと思って聞いていない。

2. グループでアクティビティ：質疑応答の練習！ [15～20分]

ワークの目的

簡単なトピックで、
質疑応答の練習をし、
質疑応答に慣れる。

テキスト p.66



手順

テキストの手順(①～④)に沿ってアクティビティを進める。

- ① 同じグループで質疑応答の練習を行う。グループのメンバーの間で発表する順番をジャンケンで決める。
- ② 好きな食べ物をテキストの欄に3つ書くように指示する。
- ③ 発表者は他のメンバーと同じ食べ物にならないように、好きな食べ物を1つ選び、発表する。
- ④ 発表者は質問に対して、あまり時間をかけずにテンポ良く答えていく。
- ⑤ 聞き手は、3分間次々と質問をして話を引き出すようにする。
- ⑥ 役割を交代し、次の発表者も③～⑤をくり返す。

ポイント・注意点

- ※ 時間があるかぎり、聞き手は次々に質問する。もし、質問が出ないようであれば、「ペチャクチャ質問集」(テキスト p.89)に記載されている「食べ物編」の質問を紹介する。
- ※ 「はい/いいえ」だけで答えられる質問ではなく、理由や意見などを答える質問をするように説明する。
- ※ 考える時間が長ならないように、テンポ良く答えるようにする。
- ※ なるべく多くの質問をするようにする。



3. 質疑応答のための発表準備の説明 [10分]

目的	以前に発表したスピーチを使って、質疑応答の練習をし、質疑応答に慣れる。
手順と注意点	<p>手順</p> <p>(1) 以前に発表したスピーチを2～3分程度にまとめ、来週もう一度発表するよう指示する。</p> <p>ポイント・注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 発表がメインではなく、発表後の質疑応答の実践がメインだが、わかりにくい発表は、聞き手が質問しにくいので、しっかりと練習をしてくるように説明する。 ※ スピーチは、発表者が話しやすいスピーチを、以前発表したものの中から自由に選んでよいことにする。

● 宿題

	所要時間の目安	宿題	テキスト
1.	15～30分	以前発表したスピーチを再度練習する。	—

● 2 回目 <発表>

順序	所要時間の目安	大まかな流れ	テキスト
1.	10～15分	発表前の確認事項	ヒント集限定！ 
2.	70分	グループでワーク：質疑応答の実践！（個人発表と相互評価）	p.67
3.	5分	宿題の確認	ヒント集限定！ 

1. 発表前の確認事項 [10～15分]

目的

発表者と聞き手双方の心構えをつくる。

用意するもの

相互評価シート
[PDF → p.59]
(発表者の人数×聞き手の人数)

タイマー

残り時間を伝えるカード

手順

(1) 発表のルールを説明する。

- ・ ビジュアル・エイドを使ってもよいが、目線に注意する。
- ・ アウトラインを確認してもよいが、原稿は読まないこと。
- ・ 制限時間を確認する。

(2) 相互評価についての指導。

- ・ 今回の学習目的を確認する。
- ・ 相互評価シートの空欄は、担当教師の必要に応じて評価項目を追加する。
- ・ 聞き手は発表中、話し手のほうに体を向けてしっかりと聴くように指導する。
- ・ 発表と質疑応答が終わってから相互評価シートの「質問に答えるとき①・②」と「応答度数」を記入させる。
- ・ グループのメンバー全員の発表と質疑応答が終わってから、全員の相互評価シートの「質問をするとき③・④・⑤」と「質問度数」とコメント欄を記入させる。
- ・ 相互評価シートはグループ全員の発表と質疑応答後に記入してから回収し、発表者に渡す。
- ・ 大切なフィードバックなので、質疑応答をよく聞いて記入する。良い点だけでなく、気になったこともしっかり書いてあげることを確認する。
- ・ 誹謗中傷のような評価は書かないよう注意する。あくまでもどうしたら良い質疑応答になるか、具体的に書くよう指導する。
- ・ 自由記入欄は、単語ではなく、文・文章で書くように指導する。
- ・ 内容に関する素朴な質問も記入してよい。

(3) グループ内で発表順を決める。

(4) タイマー係、撮影係を決める。

- ・ 発表が2週にわたる場合、発表しない学生から順番にタイマー係や撮影係をやらせよう。

ポイント・注意点

※ 発表者のスマートフォンやデジタルカメラなどのデバイスで動画撮影を行

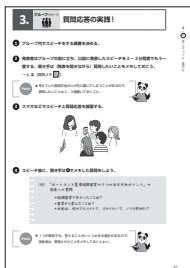
- う。教師が撮影してもよいし、学生に撮影係を担当してもらってもよい。
- ※ タイマー係には、「あと 1 分」「あと 30 秒」などと大きめに書いたパネルを持たせ、時間になったら話し手に見えるよう掲げる。または「チン」と鳴る道具を使って時間を知らせるなど指導。
 - ※ 基本的には、匿名で評価シートを記入させるが、誹謗中傷対策として評価者の名前を記入させてもよい。

2. グループでワーク：質疑応答の実践！（個人発表と相互評価）[70分]

ワークの目的

発表を聞いた後に質疑応答を実践する。

テキスト pp.67-69



手順

テキストの手順(①～⑥)に沿ってアクティビティを進める。

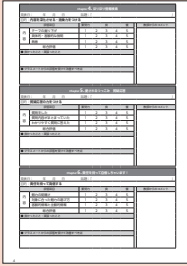
- ① 発表する順番をグループ内で決める。
- ② グループ内で、1人ずつ前に出て、発表を2～3分行わせる。聞き手は発表を聞きながらテキストの欄に質問したいことをメモするように指示する。考えていた質問を他の人が先に聞いてしまうことがあるので、質問は2、3個書くように指示する。質問メモ→[**テキスト**] p. 69]
- ③ 発表と質疑応答を録画する。グループ全体が録画できるように携帯などを設置するか、撮影係が発表者と質問者を撮る。
- ④ 発表後に、聞き手は②でメモした質問をする。質問と応答の時間は、合わせて10分程度。
- ⑤ 録画した質問・応答をグループで観る。2～3分間、お互いの良い点について話させる。
- ⑥ 次の発表者も②～⑤を同様に行う。
- ⑦ 個人の発表と質疑応答終了ごとに、聞き手に相互評価シート「質問に答えるとき①・②」と「応答度数」を記入させる。
グループメンバー全員の発表と質疑応答が終わってから、全員の相互評価シートの「質問するとき③・④・⑤」と「質問度数」とコメント欄を記入させる。
- ⑧ 話し手にはグループメンバーから回収した相互評価シートを持ち帰らせる。

ポイント・注意点

- ※ 質問をメモするときに、発表者と目線を合わせながら書くようにするか、メモが済んだらすぐに目線を上げるように指示する。
- ※ 発表者も、1つの質問について、答えることがいくつかある場合があるので、質問を聞きながらメモをしてもよいことを説明する。その際の目線も気をつけるように注意する。
- ※ 質問は、聞き手が発表者の内容を理解したかを確認する(価値ある)時間である。
- ※ 携帯で録画するときは、グループメンバーが全員入るように固定して撮影するか、撮影係が発表者と質問者を同時に撮るようにする。
- ※ 学生の人数が多い場合、発表は2週に分ける。
- ※ 全員の発表と質疑応答が終わったあと、総評をコメントしてもよい。その場合は、良かった点と改善点の両方を伝えるようにする。
- ※ 留学生の場合は、日本語の誤用などについても適宜フィードバックを行う。

3. 宿題の確認 [5分]

テキスト別冊



手順

(1) 自己評価シート（**テキスト**の別冊）について説明をする。

(2) 自己評価シートを記入し、翌週提出させる。

- 自分の質疑応答体験やクラスメートからの相互評価シートをもとに、自己評価シートを記入する。
- 自由記入欄には、なるべく具体的な自己分析を記入する。

ポイント・注意点

- ※ 教師は自己評価シートにフィードバックなどを記入し、次回、返却する。
- ※ 自分の発表動画を見て、自己評価シートを書くときの参考にするように指示する。